

「日本鳥学会ダイバーシティ推進宣言」に関するアンケート結果の報告

学会員みなさま

先日はお忙しい中、「日本鳥学会誌ダイバーシティ推進宣言」に関するアンケートにご回答くださいまして、誠にありがとうございました。おかげさまで、31名の方からご回答を頂くことができました。アンケート結果を、以下の通りご報告いたします。

【結果概要】

回答期間：2025年7月16日～2025年8月10日

回答者数：36名（白紙回答5名を含む）

設問（１）理念についてご意見等ございましたらご記入ください。

回答数：22件

回答内容：特になし・賛成17件、ご指摘やご要望5件

設問（２）各行動指針についてご意見等ございましたらご記入ください。

回答数：22件

回答内容：特になし・賛成14件、ご指摘やご要望8件

設問（３）宣言文全体へのご意見等ございましたらご記入ください。

回答数：29件

回答内容：特になし・賛成16件、ご指摘やご要望13件（うち賛成意見を含むもの7件）

【ご意見内容と学会からの回答】

宣言の文言や内容について、合計26件のご指摘・ご要望・ご意見を頂戴しました。意見の重複や、複数の設問に寄せられた類似のご意見等を整理し、以下の通りまとめると共に、各意見に対する見解を述べさせて頂きました。なお、本アンケートには、特定の属性の方の不利益につながるような、根拠のない主張に基づく差別的なコメントが1件寄せられました。学会宣言は個人の考えを縛るものではありませんが、不当な差別は学会員同士の無用な軋轢を生み、学術活動の発展を阻害します。日本鳥学会では普及啓発や公平な運営を通して、差別を生まない学会環境の醸成に努めてまいります。差別的内容の拡散を防ぐため、該当するご意見の内容公開は差し控えさせていただきます。

1. 宣言文の修正に反映したご意見

① 「など」と「等」の表現を統一、タイトルを「一般社団法人 日本鳥学会」に

→「等」を「など」に統一しました。また、宣言名としては「日本鳥学会 ダイバーシティ推進宣言」のままでしたが、理念の中で学会名が初めて出てくる部分を「一般社団法人 日本鳥学会」としました。

② 会員の立場が羅列してあるが、これには研究者でない構成員も含まれているのか。非会員も大会に参加するため、触れてはどうか

→もちろん、列挙しているのは学会員の立場の一例であり、全ての方が含まれています。しかし、研究に携わる方以外の方が含まれていないという誤解を避けるため、「職業研究者、～中略～、学生、鳥類愛好家をはじめ、鳥学に関わる様々な立場の学会員」という表現に修正しました。また、学会員に向けての宣言であるため、非会員の方については言及していませんが、大会参加などを通して非会員の方が学会と接点を持たれていることは事実であり、今後の活動として、非会員への働きかけも検討したいと考えています（⑥への回答も参照）。

③ 行動指針1に「1人1人が能力やリーダーシップを最大限に発揮できる組織作り・環境整備」とあるが、リーダーシップを発揮することが望ましいという学会の見解なのか。リーダーシップは「能力」に含める方が良いのではないか。

→「リーダーシップ」の文言を入れたのは、組織でのリーダーシップは特定の属性に偏りがちであるため、属性に関わらずリーダーシップをとれる環境を作りたい、との意図があったからです。しかし、この背景が分らないと、正しく受け取ってもらえない可能性があると考え、「リーダーシップ」の語は削除することとしました。

2. それ以外のご意見

④ なぜ鳥学会がダイバーシティ推進宣言を発出すべきなのか、背景について説明が必要

→説明不足について、お詫び致します。学会においてダイバーシティの推進を行うべき理由は、(1)多様な会員だれもが安心して参加し、活躍できる環境を整えること、(2)さまざまな立場や経験を持つ会員同士の交流を促進し、研究や保全・普及啓発活動の質を高めること、そして、(3)次世代の鳥学を担う若手や、マイノリティの会員が力を発揮できる場を整えることで多様な人材を確保し、学会の持続的発展につなげることにあります。

鳥学会には他の学会と同様、会員のダイバーシティに関わる課題があります。例えば、現時点で認識されているものとしては、ジェンダーギャップがあり、鳥学会の学生会員は男女ほぼ半数ずつなのに、一般会員になると女性は2割に留まるほか、運営組織にはさらに女性比率が少ない組織もあるのが現状です。また、日本語を母語とされていない会員にとって参加しやすい環境にできていない点も課題です。本件は、ダイバーシティに関わるこれらの課題解決によって、学会活動のさらなる発展や活性化を図ることを目指して、活動推進を宣言

するものです。顕在化できておらず、意識できていない問題も多数あると考えられるので、今後、課題抽出とその解決に向けて活動を検討・実施していく予定です。宣言は対外的なアピールではなく、学会内部に活動推進の意志を表明するものであり、学会員ひとりひとりが、気付かない問題があるのではないかと自覚し、課題解決に向けて動こう、と呼びかけるもの、と位置付けています。

⑤ 宣言の内容が抽象的に感じる。宣言の背景や課題（ジェンダーギャップの是正など）、評価方法などについて、より具体的な表現がある方が理解しやすいのでは

→④への回答のように、宣言は出発点であり、今後、課題抽出等を行い、活動を推し進めていく予定です。そのため宣言は、課題を絞らず、なるべく広く活動を展開できるような表現としました。

活動の評価についても、柔軟に対応可能とするため、宣言には方法を明記しませんが、会員構成比率（運営組織・委員会等も含む）、学会賞受賞者や大会シンポジウム講演者の女性比率等をモニタリングし、セミナー報告やアンケート・意識調査結果等と共にダイバーシティ推進WGのウェブサイトで公表する予定です（⑥も参照）。また、本学会は、男女共同参画学協会連絡会にも加盟しているため、他学会との進捗の比較結果も公表できればと考えています。

⑥ 会員の多様性とは何か、基準を設けるべきでは。鳥学会員は、鳥に興味を持てるだけの出自や環境がある人の集まり。その中で多様性を高めるということが理解しづらい

→学会宣言で目指しているのは、学会員の多様性を高めることというよりは、多様な学会員の課題を抽出し、様々なバックグラウンドの方が参加・活躍しやすい環境整備を進めていくというものです。その達成度を一様に測る基準はありませんが、会員に対して定期的にダイバーシティへの意識調査などを行い、段階的な推移状況をお示ししたいと考えています。

すでに鳥学会に入る時点で、特定の属性に偏っているというご指摘に関しては、興味があっても現時点で学会に入っていない方、入れない方を含め、様々な属性の方に働きかけを展開していく事を検討したいと思います。これは学会への入会の敷居を低くする活動と位置付けられます。

⑦ 人材や資金の投資の面から、なぜ学会で普及啓発セミナーをせねばならないのか疑問に感じる。余力があれば、多様性への理解や受容は自然に高まるのでは

→資金的・人的な余力が他者の受容を推し進めるのは確かですが、例え余力があっても、課題を知らなければ、解決に向けた行動をとることはできません。そのため、会員間の相互理解は多様性の受容に最も重要であり、普及啓発はダイバーシティ推進の要です。年に一度、多数の会員が集う大会時に行うセミナーは、最も効果的な普及啓発の方法であり、学会としては、資金・人的リソースを割く十分な価値のある活動だと認識しています。

- ⑧ 鳥学会はボランティアで行っているのも、余裕がないことも多い。できていない＝マイナスに捉えられることのないよう、「是正する」のような強い表現より、努力目標としてももう少し柔らかい表現が良いのでは

→ 宣言は目標であり、具体的な内容は、宣言に則って今後、検討していく予定です。そのため宣言においては、活動を進めていくという強い意志を示す表現として、「是正する」という言葉にこだわりました。物理的にも予算的にできないことがたくさんある中で、その反省の意識を持つことも、「是正」のプロセスとして大切であると考えています。

- ⑨ 「学会員の構成比率やニーズ等の実態を調査」する際は、会員の個人情報（性別や国籍等）の管理体制について、慎重に検討して欲しい

→ ご懸念についてはもっともです。アンケート等を行う場合は無記名で行いますので、性別・その他の属性が学会員の氏名と紐づけられることはありません。

- ⑩ 役員・委員等の構成比率の数値目標を示すべきでは。また、役員選挙で、地区代表や若手枠などを設けてはどうか（立候補制も含めて）

→ 役員や委員会等における構成比率自体は、毎年、情報収集する予定の「学会員の構成比率」に含まれています（⑤も参照）。構成比率の数値目標に関しては、宣言には明記しませんが、今後の推移によって、検討したいと思っております。地区代表や若手枠などを設けて、執行部の多様性確保を行うというご提案についても、今後検討したいと思います。

- ⑪ 宣言したからには、それに沿った運営を進めて欲しい。具体的な取り組みを示しつつ進めて欲しい。議論できる機会をしばらく継続して欲しい。会員ひとりひとりが当事者意識をもって参加できる環境づくりが必要。会員の意識改革が重要。国際化の推進と、得られた結果の会員への還元をして欲しい

→ 活動にあたっての要望、懸念、押さえるべきポイント等、たくさんのご意見を頂きました。活動の際は、頂いたご意見内容に留意して進めたいと思います。具体的な方針や活動内容、結果等は、ダイバーシティ推進 WG のウェブページで公開する予定です。

貴重なご意見を頂き、感謝申し上げます。総計 73 件のご意見のうち、問題ない・賛成との意見が 54 件（74%）と多数を占めており（ご指摘等に併記されたものも含む）、ダイバーシティ推進宣言の発出への明確な反対意見は 1 件のみでした（内容非公開）。40 件の賛成のご意見には、「強く賛同」、「重要な理念」、「向き合うべき課題」、「明文化することに意義がある」、「頑張っほしい」等、賛同や応援のコメントが多数寄せられました。ありがとうございました。一方で、ダイバーシティ推進宣言の背景や、具体的な活動、成果などについて、丁寧な説明を求める声が多かったことも真摯に受けとめ、公開予定のダイバーシティ推進 WG ウェブサイトでの情報公開

を充実させると共に、分かりやすい活動展開に努めてまいります。

アンケート結果を受けて確定した宣言文を以下にお示しします。日本鳥学会は、2025 年度大会における「日本鳥学会 ダイバーシティ推進宣言」の発出を目指し、会員総会での決議事案として提出する予定です。どうぞよろしくお願い致します。

一般社団法人 日本鳥学会
ダイバーシティ推進 WG

日本鳥学会 ダイバーシティ推進宣言

〈理念〉

鳥学の発展および鳥類保護への学術的貢献を目的とする一般社団法人 日本鳥学会は、職業研究者、アマチュア研究者、教員、各種団体職員、学生、鳥類愛好家をはじめ、鳥学に関わる様々な立場の学会員で構成されています。学会員すべてがこれら立場の違いや、国籍、人種、民族、文化、宗教、信条、出身地、生い立ち、経歴、年齢、性別、性的指向、性自認、障がい、婚姻の状況などの違いを互いに認め合って自らの力を最大限発揮し、活躍できる環境を実現することは、学会として、学術研究活動のさらなる展開と学会の健全な発展、鳥学を通じた社会貢献のために非常に重要な課題です。

以上の理念に基づき、日本鳥学会は、多様な学会員すべてを等しく歓迎し、その創造的な学術研究活動を支援するために、以下の行動指針に則ってダイバーシティの尊重および推進に努めることを宣言します。

〈行動指針〉

1. 多様性：あらゆる学会活動において学会員の多様な個性・視点を尊重し、1人1人が能力を最大限に発揮できる組織作り・環境整備を推進する。
2. 公平性：情報へのアクセスや学会活動への参加機会などが公平な学会環境を目指し、制度の策定や運営を通して、多様な学会員が直面する格差や不利な状況を是正する。
3. 包摂性：すべての学会員が互いの違いを認め、個々の目的や目標に応じた学会活動を行える環境の構築を目指し、多様な人々の参画や登用を推奨する。
4. 相互理解：定期的に学会員の構成比率やニーズなどの実態を調査し、分かりやすく公表すると共に、セミナーなどを通じて、ダイバーシティ推進の理念や必要性、方法について情報共有し、普及啓発を行う。

一般社団法人 日本鳥学会
